

# 東大和三中だより

平成30年4月11日

4月号 (No.1)

発行 東大和市立第三中学校

〒207-0016 東大和市仲原2-7

TEL 042-564-5411

## 「誇りある三中」であるために守りたい7つの約束

東大和市立第三中学校長 井上 敬夫

平成30年度4月の東大和三中は新入生133名が加わり、全校生徒495名でスタートしました。

新入生は新しい中学校生活に期待と少しの不安を抱えて毎日登校していることと思います。2年生は一年間の中学校生活に慣れて、後輩も入学して新鮮な気持ちで日々を過ごしていることでしょう。そして3年生は来年早々の進路選択に向けて心の片隅にプレッシャーを感じながらの新学期ではないでしょうか。

生活委員会と生徒会が昨年度1年間、給食の時間に訴えかけてきた「『誇りある三中』の一人であるために守りたい7つの約束」を改めて紹介します。

- 1 わたしは、人を傷つけません。
- 2 わたしは挨拶を大切にします。
- 3 わたしは授業を大切にします。
- 4 わたしは服装や身だしなみを整えます。
- 5 わたしは不要なものを学校に持ってきません。
- 6 わたしは環境美化に努めます。
- 7 わたしは「誇りある三中」のひとりであることを自覚して生活します。

「PRIDE2017」と名付けられた上記の7つの約束を全校生徒が守ることが出来たのなら、東大和三中はもっと素晴らしい学校になると思います。

新年度を迎えて、三中生の多くは気持ちを新たにスタートしたはずですが、今年度、上記の文言は「PRIDE2018」としてみなさんに訴えかけていくことになるでしょう。東大和三中の一員として毎日過ごすことに誇りを持てるような一年間を過ごしてもらいたいですね。

そのためには、まず自分なりの目標をきちんと定めることです。そしてさらに大切なことは、具体的に設定し、その目標達成までの期限をきちんと決めることです。例えば「勉強を頑張る」では抽象的すぎて達成が難しいかもしれません。「二学期の中間考査までに苦手な数学を平均点以上取る。」にすると、具体的で期限が分かるので頑張り甲斐があります。どうやったらいいのかという方法まで考えることが出来るのです。

いずれにしても、新学期のスタート。三中生がそれぞれの目標に向けて前進していく一年間になることを期待しています。

今年度、重点的に取り組んでいきたいことには下線を引いてあります。

平成30年4月4日  
校長 井上 敬夫

# 平成30年度 学校経営方針

## 子どもは周囲の大人を規範として育つ

- 情熱を持って教育に当たる。生徒は教師の姿を見て育つ。
- 生徒の良さを見つけ、前向きに評価していく。

### 学校教育目標

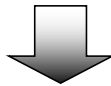
- ・自ら考え、正しく判断できる生徒 (重点目標)
- ・力を合わせ、実践する生徒
- ・心温かく、思いやりのある生徒 (道徳教育の充実)
- ・苦難に耐えて、やりぬく生徒
- ・健康で、たくましい生徒

### 本校の現状と対策

#### 1 学力向上

学習習慣が確立していない、基礎学力が不足している、学習への意欲に欠ける面があるなど課題がある。全国学力調査や都学力向上調査の結果も芳しくない。学習意欲を高め、学力の定着を図るための努力・工夫が求められる。

★生徒の意欲を喚起する授業の工夫



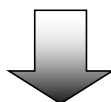
#### 学力の定着を図る学習活動の工夫

- ①活気ある授業の工夫 (授業のメリハリ＝焦点化・導入の工夫、アクティブラーニングの手法 等)  
→生徒が活発に「思考する」授業
- ②授業技術の向上 (発問・指示の精選、板書の工夫、目標と評価の明示 等)
- ③学習習慣を定着させる工夫 (ノート指導、視写技術の徹底、宿題の工夫)
- ④3年間の到達度を意識した計画的指導 (入試を意識した工夫 等)

#### 2 生活指導

反抗的・暴力的な生徒は少ない。反面、無気力な生徒や他校との関わりの中で崩れる可能性のある生徒はいる。学校生活の中で意欲向上につながる場面を見つけて、少しでも自信を持たせることで、自尊感情を育み、安定した学校生活を送らせるようにする。

★生徒の個性に応じた適切な指導を継続し、心通う指導を実践する。

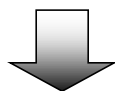


## 生徒の自尊感情を育む生活指導の工夫

- ①あいさつの励行（「おはよう」「こんにちは」「さようなら」等）
- ②自分の意見や考えを明確に表現できる生徒の育成
- ③生徒の特性に合った指導（生徒が教師の愛情を感じられる指導）
- ④全員体制での生活指導の徹底（挨拶・見回り・緊急時対応 等）
- ⑤問題を抱える生徒への共通理解、および保護者との連携

### 3 不登校対策

不登校及び不登校傾向にある生徒が一定の割合でいる。学校だけでは解決困難なケースが多い中、家庭との連絡を粘り強く行うことが大切になる。カウンセラーやSSW、学習支援室ボランティア、外部機関等と連携して、少しでも生徒が前向きに生活できる援助を行う。



- ①担任を中心とした不登校生徒の状況を把握。
- ②不登校傾向が見られた場合の迅速な初期対応。
- ③保護者・本人との連絡が取れるようにして、学校とのつながり絶やさない。  
（家庭訪問・SSW・青少年育成委員・民生児童委員等との連携）
- ④生活指導部・特別支援コーディネーターによる情報の共有化。
- ⑤校内委員会による月1回の情報交換会の設定。
- ⑥外部機関との連携と、場合によってはケース会議を行って対応策を協議。

### 4 校内研修（3年計画の3年目）※2月15日（金）研究発表に向けて

「特別の教科 道徳」が平成31年度から実施されることを踏まえて、道徳の教科化に伴うこれからの道徳教育の在り方を研修していく3カ年計画の3年目である。資料の提示方法や価値項目の切り口、生徒の学習活動への具体的な発問方法の提示、評価方法等を今年度は研修していく。

## 「三中日記」より 三中ホームページにて、鋭意更新中！

学校の様子を積極的に発信していきます。ぜひご覧ください。なお、生徒の個人名は載せない、真正面から撮った顔写真は使わないなどの配慮をしますが、掲載につきまして支障がある場合は副校長までご連絡ください。



4月9日(月)入学式の後、教室に戻って最初の学活です。各担任の先生から配布物が配られています。今週は提出物も多いので、忘れ物をしないように明日から登校しましょうね。